

2023年度

# 環境活動レポート

「2022年6月～2023年5月」

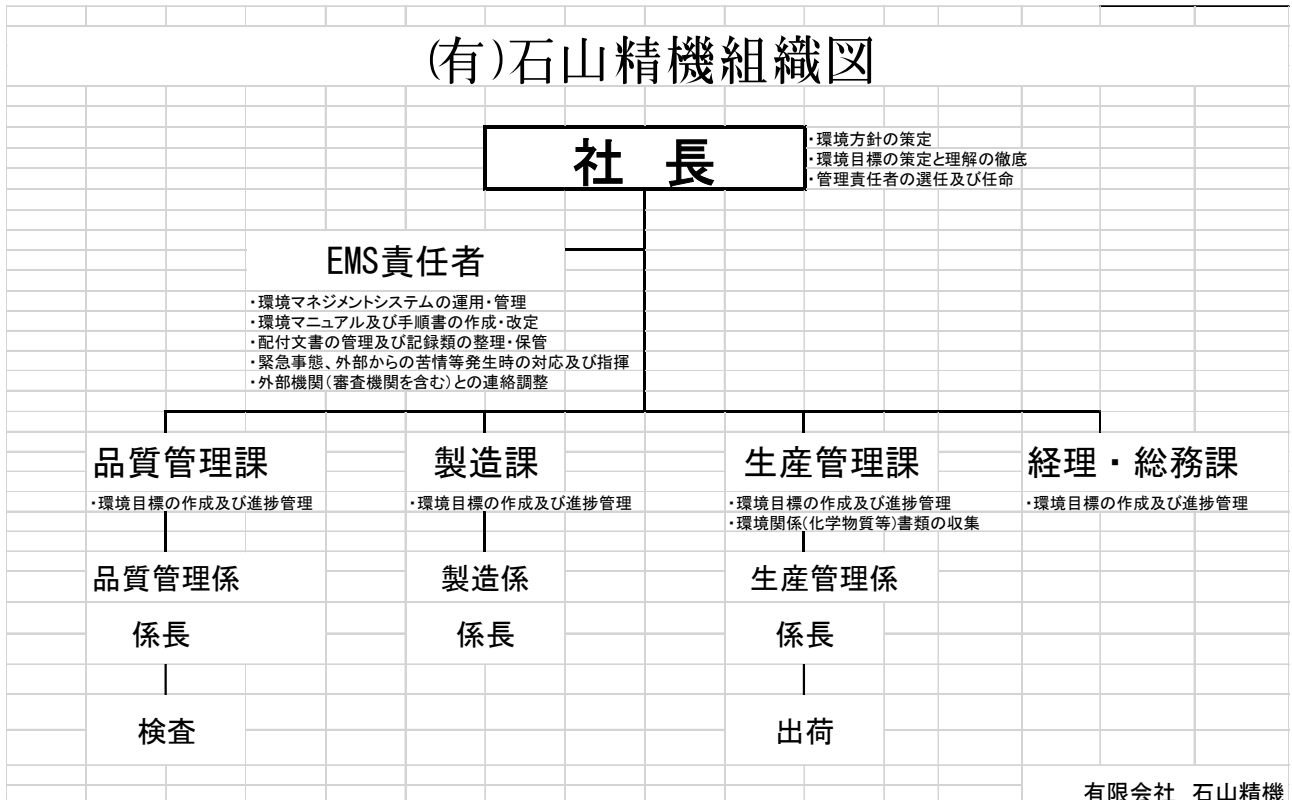
2023年6月1日

有限会社 石山精機

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 : 有限会社 石山精機  
 代表者氏名 : 代表取締役社長 石山武司
- (2) 所在地 : 福島県郡山市富久山町福原字戸屋50
- (3) EMS責任者/担当者 : 石山武司 TEL 024-923-5953
- (4) 事業の内容 : カメラ等の光学機器、自動車部品、及びその他精密部品の自動旋盤による切削加工業
- (5) 事業の規模 : 売上高 3.0億円
 

従業員数	29名
延べ床面積	1,076.3 m <sup>2</sup>
- (6) 事業年度 : 6月から翌年5月
- (7) 法人設立年月日 : 昭和43年6月
- (8) 資本金 : 300万円
- (9) 対象範囲 : 所在地にある全ての組織・活動
- (10) 実施体制



## 2. 環境方針

### 【環境方針】

有限会社石山精機は、様々な製品の精密部品を提供する事により社会の一員として環境の汚染を防止し、資源の有効活用に努め、地球環境の保全を目指し継続的改善活動を図ります。

1. 環境・安全に配慮し、環境保全に適した生産活動に努める。
2. 製造・物流・使用・廃棄等に於いて、環境保全活動の向上に努め継続的な環境負荷の最小化を図る
3. 全ての企業活動に於いて、排出抑制・リサイクルを推進し、省資源・省エネルギー化を目指す。
4. 国、県、周辺地域のみならず、国際社会の環境に関する法律・規制を遵守し、環境汚染を防止する。
5. 環境目的及び目標を設定し、監査を通じて環境マネジメントシステムを継続的に見直す。
6. 環境に関する意識を向上させる為、従業員の教育に努める。
7. 環境方針は組織に関係する全ての人に周知し、一般の人へも開示しいつでも入手出来る様にする。

2012年6月1日発行

2015年6月8日改定

有限会社 石山精機  
代表取締役 石山武司

### 3. 環境目標とその実績

環境目標	目標	単位	2022 年度実績	2023 年度	達成状況
	実績				
二酸化炭素排出量の削減	目標	Kg-CO <sub>2</sub>	450,642	450,642 ‘19.5月から1%減減	○
	実績	Kg-CO <sub>2</sub>	411,006	405,436	
一般廃棄物排出量の削減	目標	kg	1,508	1,492 ‘20.5月から1%減減	×
	実績	kg	1,447	2,059	
産業廃棄物排出量の削減	目標	リットル	4,200	4,455 ‘19.5月から1%減減	○
	実績	リットル	4,150	2,950	
水使用量の削減	目標	m <sup>3</sup>	247	266 ‘19.5月から1%減減	×
	実績	m <sup>3</sup>	266	455	
化学物質使用量の適性管理	目標	kg	該当物質無	該当物質無	○
	実績	kg	該当物質無	該当物質無	
工具使用量の削減	目標	円	‘19 年度売上比 1%削減	‘19 年度売上比 1%削減	○
	実績	円	売上比 10%以下 (10.7%)	売上比 10%以下 (10.3%)	

二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は丸紅新電力 2020 年版を使用し、0.542kg-CO/kWh を使用しました。2024 年度まで同じ係数を使用します。

#### 4. 中期の環境目標（2024年～2026年度）

環境目標	単位	基準値	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
二酸化炭素排出量の削減	Kg - CO <sub>2</sub>	455,194	441,538 ‘19.5月から3%削減	436,986 ‘19.5月から4%削減	432,434 ‘19.5月から5%削減
一般廃棄物排出量の削減	kg	1,508	1,462 ‘20.5月から3%削減	1,447 ‘20.5月から4%削減	1,432 ‘20.5月から5%削減
廃棄物排出量の削減	リットル	4,500	4,365 ‘19.5月から3%削減	4,320 ‘19.5月から4%削減	4,275 ‘19.5月から5%削減
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	269	260 ‘19.5月から3%削減	258 ‘19.5月から4%削減	255 ‘19.5月から5%削減
化学物質使用量の適性管理	kg	該当物質無	該当物質無を維持	該当物質無を維持	該当物質無を維持
工具使用量の削減	円	32,127,000	31,163,190 ‘19年度売上比3%削減	30,841,920 ‘19年度売上比4%削減	30,520,650 ‘19年度売上比5%削減

二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は丸紅新電力 2020年版を使用し、0.542kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用しました。2024年度まで同じ係数を使用します。

基準値は全て2020年度の実績を元にしております。

総排水量は計測困難の為、水使用量（上水）で管理しています

- 中長期環境経営目標

2023年度

設備の増設による資源の使用料と価格高騰によるエネルギーや刃具、油材の使用料に影響が感じられる。今年度も出来得る限りの節減を図っていくが、目標設定値の再検討も行っていく。

5. 環境活動計画及び取組結果と評価並びに次年度の取組内容

環境目標	達成状況	環境活動計画内容	実施状況	評価と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	○	空調温度の適性化 ピーク電力量の抑制 未使用設備のスイッチオフ 不要照明の消灯	○ ○ ○ ○	冬場のワームビズ活動の一環で空調の設定温度を下げる代わりに全員に上着を購入する等、電気使用量の削減に努めた。
一般廃棄物の削減	×	コピー回数の削減 裏紙の使用 両面コピーの実施 電子機器の使用によるペーパーレス化	○ ○ ○ ○	612kgの増加となってしまった。5S活動の一環で床の油汚れの清掃を毎日行う事とした事によりウエス、油吸着マットの使用量は増えている。
産業廃棄物の削減	○	金属くずの100%リサイクル 作業ミスによる排出量の削減 不適合製品の削減	○ × ×	産業廃棄物の廃油に関しては前年の4,150ℓから2,950ℓ削減できた。不良損金に関しては前期5,318千円から6,280千円となり悪化してしまった。
総排水量の削減	×	節水活動の推進	×	今後も継続して活動する。
工具使用量の削減	○	使用工具の削減	○	使用工具の削減では売上比率で10.7%から10.3%となり前年より0.4%削減出来た。
化学物質使用の適正管理	○	含有禁止化学物質と工程使用禁止化学物質の不使用の維持 含有管理・工程管理化学物質の不使用	○ ○	規制対象物質は使用していない。今後も適正管理を行っていく。

## 6. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

### ①当社の事業活動において適用される主な環境関連法規制と遵守状況

適用される法規制等	遵守状況
廃棄物処理及び清掃に関する法律	○
振動規制法	○
騒音規制法	○
水質汚濁防止法	○
環境基本法	○
工業用水法	○
P R T R法	○
消防法	○
R o H S 指令	○
化審法	○
E A R規制	○
P F O S 規制	○
R E A C H 規制	○
資源の有効な利用の促進に関する法律	○
ボイラー及び圧力容器安全規制	○

2023年6月1日法規制の遵守状況を評価しましたが、違反はありませんでした。

関係機関からの指摘や周辺住民からの訴訟はありませんでした。

## 7. 代表者による評価と見直し結果

### (1) 個別評価

#### ① 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量は前期の411,006Kg-CO<sub>2</sub>から、5,570Kg-CO<sub>2</sub>削減の405,436Kg-CO<sub>2</sub>となった。電力量は前年度787,858kWから800,273kWとなり12,415kWの増加となった。今期の前半は好調のまま推移したが、昨年から予想されていた通り今年の2月頃から受注は1割から2割減の状態が続いている。結果として二酸化炭素発生量は削減、電気使用量は増加となったが、機械の稼働量は減っている状態なので今期も注視していく。

#### ② 一般廃棄物の削減

結果としては年間の廃棄物量の合計で前年度の1,447kgから2,059kgと約42%の大幅増加となった。前述の通りではあるが、現在5S活動の一環で床の油污れの清掃を毎日行う事とした事によりウエス、油吸着マットの使用量は増えている事も要因の一つであると考えている。

#### ③ 産業廃棄物の削減

前年度の4,150ℓから2,950ℓと1,200ℓの削減となった。前述の通りではあるが、今期の前半は好調のまま推移したが、昨年から予想されていた通り今年の2月頃から受注は1割から2割減の状態が続いている。機械の稼働率も2割から3割落ちている状況になっている事も影響しているものと考ええる。

#### ④ 総排水量(使用量)の削減

前年度266ℓで今年度が455ℓと約189ℓの増加となった。考えられる要因として、5S清掃活動の中で毎日入口前、切粉搬出口前、材料搬入口前の床清掃を行っている事と期の途中で水漏れの可能性がある水道局から連絡があり確認したところに水道使用量が大幅に増加していた。(専門業者にも調査依頼をしたが結局原因は不明、現在様子見)、この2点が考えられる。

#### ⑤ 工具使用量の削減

工具の使用量に関しては10.7%から10.3%と0.4%の削減ができた。消耗品比率年間10%以下の目標に対しては未達成となってしまったが、対売上比率で見ると削減出来ているので、購入価格が高騰している昨今の状況を鑑みれば良い方かと考える。

不良品に対する損金は前年度531万円からさらに616万円と悪化してしまった。購入金額だけに限らずエネルギー使用量、作業時間全てにおいて影響があるので、不良品に対しての原因の究明と再発防止対策を徹底していく。

#### ⑥ 化学物質使用の適正管理

弊社では現在P R T R対象物質の使用は無いが、今後も適正管理を継続していく。



## (2) 見直し評価

総括としては4項目で目標達成となった。

今年の2月頃から受注が落ち着き始め、今期はおそらく我慢の年となる。使用する資源も減少傾向になる事が理想ではあるが、前期の結果をしてみると単純にそうになっていない項目もある。目標未達成となった項目に関してはムダを省き効率の良い生産を目指し、資源の使用量を少しでも削減していく意識を持って活動を継続していく。